

講義科目名称： 福祉倫理特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鈴木 利定			
添付ファイル			

学修目標	倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。 要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠(良知)が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体の力行を重んずる人を育てることを主眼とする。		
講義の内容（基本的枠組）	対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体の力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善悪の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の錬成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 講義内容の説明 第2回 当校、伝統の建学精神 当校の礎と学統 第3回 当校、伝統の建学精神 提言字の解義 第4回 当校、伝統の建学精神 現代的意義 第5回 当校の教育理念 理気説の提言(1) 第6回 当校の教育理念 理気一元説の導入(2) 第7回 当校の教育理念 提言字の本義 第8回 当校の教育理念 現代的意義 第9回 儒教倫理 特色 第10回 儒教倫理(1) 特性(1) 第11回 儒教倫理(2) 特性(2) 第12回 家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認 第13回 家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認 第14回 社会生活と倫理の発現 同上及び建学精神、教育理念の体認 第15回 職業と人生(就業規則と職業倫理を含む) 当校、諸学部諸学科の顕彰		
受講生への要望	仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。		
評価方法	授業でのコメントは20点、期末筆答試験は40点、レポートは40点、総合点100点満点となります。		
テキスト・参考書	【テキスト】 咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育 鈴木利定・中田勝 著 【参考書】 随時指示		

講義科目名称： 社会福祉原理特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
笹澤 武			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉学の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。		
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。		
授業計画	第1回 授業計画、参考文献、資料収集 第2回 社会福祉の用語変遷(福祉概念の発展) 第3回 社会福祉の基本前提(生物、文化社会的面) 第4回 社会福祉の基本前提(人間存在としての生など) 第5回 社会福祉の基本前提(現代社会福祉理念の諸問題) 第6回 社会福祉の基本前提(個の確立) 第7回 社会福祉の基本前提(国家福祉の理念) 第8回 社会福祉の基本前提(人間的理念:人権、個人の尊厳、生命の尊厳) 第9回 社会福祉の基本前提(人間的理念:平等の理念、自由の理念、自立の理念) 第10回 社会福祉の基本前提(愛他理念:理念と展開) 第11回 社会保障、社会福祉の理念をさぐる 第12回 20、21世紀の福祉理念 第13回 わが国の憲法の示す福祉理念 第14回 行政の示す社会福祉 第15回 講義のふりかえり		
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学聞を自らのものにして欲しい。		
評価方法	発表(30%)・レポート提出(70%)で総合的に評価する。		
テキスト・参考書	【参考文献】 「社会福祉の発見」あいり出版 「生命倫理」弘文堂 その他		

講義科目名称： 社会福祉理論・学説史研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
笹澤 武			
添付ファイル			

学修目標	わが国の社会福祉の理論と人間らしく生きることと対比して考究したい。
講義の内容（基本的 枠組）	絆の言葉が使われている昨今を別の角度から肯定的、批判的に考えてゆくため、若干の学説も取り上げる。 その考え方の背景に人間らしく生きるための思想(考え方)や実践を取り上げてみる。
授業計画	第1回 授業のためのオリエンテーション 第2回 社会福祉の基礎理論 第3回 日本における社会福祉の歴史的展開 第4回 欧米における社会福祉の歴史的展開 第5回 社会福祉の援助対象と福祉ニーズ 第6回 社会福祉援助の方法と過程や組織運営 第7回 公共にとっての社会福祉学とは 第8回 社会福祉の担い手と専門職制度 第9回 戦前・戦後社会福祉の展開と主な福祉改革(1) 第10回 戦前・戦後社会福祉の展開と主な福祉改革(2) 第11回 社会福祉の国際的動向 第12回 社会福祉とグローバリゼーション 第13回 社会福祉の供給体制 第14回 21世紀社会福祉の展望 第15回 講義のふりかえり
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学問を自らのものにして欲しい。
評価方法	発表(30%)・レポート提出(70%) で総合的に評価する。
テキスト・参考書	【参考書】 国代国次郎「社会福祉学とは何か」本の泉社 杉本一義「人生福祉」駿河台出版社

講義科目名称： 社会福祉経営特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
松原 直樹			
添付ファイル			

学修目標	1. 社会福祉の組織の経営に関する基礎知識を理解し、またその特殊性を理解する。 2. 社会福祉サービスを提供するための財源と社会福祉サービス組織の財務管理を理解する。 3. 社会福祉サービス組織の経営において必要な人事・労務・安全等に関する管理を理解する。 4. 社会福祉サービス管理・改善等の実践を理解し、所属組織のサービス管理方法の改善課題を把握する。 5. 社会の環境変化の中での社会福祉サービスの変化について理解する。
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉サービスには、近年、多様なサービス提供主体が参入してきている。その中心となる社会福祉法人は、高い公益性を備えながらも、「経営基盤の強化」「その提供する福祉サービスの質の向上」及び「事業経営の透明性の確保」が法的に求められている。本講座では、まず社会福祉経営・管理の考え方、基礎理論及び沿革を取り上げ、また社会福祉事業に関する行財政制度について取り上げ、特に社会福祉法人制度について、検討を行う。その上で、福祉サービスの経営管理方法として、サービス管理、人事管理・労務管理、財務管理、安全管理、情報管理、危機管理等について、具体的に検討する。そうした学修により組織の意思決定や経営について深く理解した上で、サービス管理業務の課題を発見する。また、国際化・少子高齢化の中で、社会福祉サービスがどのように変化していくのか、制度の比較により検討していく。
授業計画	第1回 オリエンテーション、社会福祉と経営 本講義の位置づけと全体像について、理解する。社会福祉と経営に関して、社会福祉経営の特徴について、概観した後、「福祉経営論」という学問領域について、概要を理解する。さらに、社会福祉経営論の学修範囲について、理解する。 第2回 福祉サービスの経営主体 福祉サービスの提供主体に関する最新の統計により、現状を理解する。その上で、福祉サービスの具体的な提供主体である、国・地方公共団体、社会福祉法人、医療法人、社団・財団法人、協同組合、営利法人および特定非営利活動法人(NPO)について、その概要と福祉サービスにおける役割を理解する。 第3回 社会福祉サービスの管理【研修①】 社会福祉サービスの管理について、特に福祉サービスにおける人事管理について理解する。具体的には、人事管理の方法として、採用、ジョブローテーション、人事考課、能力開発、メンタルヘルス・マネジメント等について、理解する。次に、福祉サービスにおける労務管理について理解する。また、労務管理の内容、労務管理の優先順位および労務管理において遵守すべき法令について理解する。 第4回 社会福祉サービスと法人【研修②】 第2回で学修した社会福祉サービスの主体の組織の中でも中心となる社会福祉法人制度について、法人の形態、設立と組織体制について具体的に理解する。 第5回 社会福祉サービスに関する行財政制度と会計 社会福祉サービスに係る行政のしくみとして、国及び地方自治体の具体的な行政組織について理解する。次に社会福祉法人の財務について、社会福祉法人会計基準について、その概要を学習する。 第6回 社会福祉経営と介護保険制度 介護保険制度の概要及び近年の介護保険制度改革について理解する。その上で、さまざまな社会福祉サービスの主体における介護保険との関わりについて、業務内容および経営面から理解する。 第7回 市場原理と社会福祉経営の経営行動モデル 福祉サービスにおける市場原理の関わりとその有効性について学習し、社会福祉サービスにおける企業行動モデルの適用可能性について検討する。 第8回 社会福祉経営の国際比較(1) 社会福祉における欧米諸国の行財政制度について学習し、さらに欧米諸国の社会福祉の経営主体について、比較検討する。 第9回 社会福祉経営の国際比較(2) 社会福祉における近隣諸国の行財政制度について学習し、さらにアジア太平洋地域諸国の社会福祉の経営主体について、比較検討する。 第10回 会議運営（演習）【研修③】 会議運営について基本的事項を理解した上で、配布する会議マネジメントのチェックリストに基づいて、具体的な組織における会議マネジメントの課題をグループで討議する。 第11回 福祉サービスの評価・管理（演習）【研修④】 福祉サービスの評価・管理に関する基本的事項を理解した上で、配布するサービス評価・管理のチェックリストに基づいて、具体的な組織におけるサービスの課題をグループで討議する。 第12回 福祉サービス第三者評価（講義）【研修⑤】 「福祉サービスにおける第三者評価事業に関する報告書」や「福祉サービスの第三者評価事業に関する指針について」に沿って、福祉サービス第三者評価の流れを理解し、また福祉サービスの第三者評価基準について理解する。

	第13回 福祉サービスの苦情解決の方法（演習）【研修⑥】 リスクマネジメントとその取組について、「福祉サービスにおける危機管理（リスクマネジメント）に関する取り組み指針」に沿って理解し、さらに苦情受付業務の流れを理解する。その後具体的なリスクマネジメントガイドラインを題材として、理解する。 第14回 緊急介入事案への対処方法（1）（演習）【研修⑦】 社会福祉サービスの財務管理の概要及び社会福祉法人の会計基準についての概要を理解した後、事例を使って財務分析を行う。さらに、モラルサーベイ・チェックについて、事例に基づいて理解する。 第15回 緊急介入事案への対処方法（2）（演習）【研修⑧】 社会福祉サービスの主体の経営に関する現状を分析するため、SWOT分析について、分析方法の概要を理解した後、具体的な事例に基づいて理解する。
受講生への要望	「福祉サービスの組織と経営」について、すでにある程度学修していることを想定して授業を進めていきます。修士論文の作成を念頭に置いたうえで、参考文献を事前及び事後に検討するなど、主体的に授業に参加することを望みます。
評価方法	レポート50%、受講状況・姿勢50%
テキスト・参考書	【テキスト】 使用しない予定。基本教材としてプリントを配布する。 【参考書】 宇山勝儀・小林理 編著『社会福祉事業経営論』（光生館） 『社会福祉施設経営管理論2022』（全社協） 千葉正展『福祉経営論』（ヘルスシステム研究所）

講義科目名称： 社会福祉法制特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
高野 芳久			
添付ファイル			

学修目標	福祉サービス、社会保障の基礎となる法制度の理解と、利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段を実践的に研修する。		
講義の内容（基本的枠組）	1) 社会福祉に関する法制度につき説明できる。 2) 利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段をについて説明できる。		
授業計画	第1回 権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む) 第2回 憲法と人権保障 第3回 意思能力・行為能力・意思表示 第4回 契約(消費者保護制度を含む) 第5回 成年後見制度 第6回 婚姻(DV防止法を含む) 第7回 親子・親権(児童虐待防止法を含む) 第8回 扶養(高齢者虐待防止法を含む) 第9回 行政活動 第10回 行政救済 第11回 社会福祉法制概説 第12回 社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ 第13回 社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ 第14回 成年後見制度に関する判例研究Ⅲ 第15回 成年後見制度に関する判例研究Ⅳ		
受講生への要望	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。授業には演習も含まれるので、討議にも積極的に参加すること。		
評価方法	①レポート・試験60% ②発表40%		
テキスト・参考書	【テキスト】 ・宇山勝儀・森長秀 編著 「社会福祉を志す人のための法学」 光生館、2011年 ・宇山勝儀・船水浩行 編著 「社会福祉行政論」 ミネルヴァ書房、2010年 ・「社会福祉六法」(最新のもの) 新日本法規 【参考書】 ・講義時にその都度説明する。		

講義科目名称： 高齢者福祉特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1, 2年	2	選択
担当教員			
山口 智晴			
添付ファイル			

学修目標	高齢者の生活の安定、安心、生きがいなどを支援するための理論と実践について、理解を深める。 具体的には、わが国における社会構造の変化とそれに対応する施策制度の変遷、これからの社会施策のあり方について、各回で設けられたテーマを基に理解を深め、今後の実践や研究に生かすことができることを目指す。 また、本科目を通して高齢福祉療育での研究アイデアを育む力を養うことを目指す。		
講義の内容（基本的枠組）	わが国では、長寿を手に入れたが、果たしてその最終ステージは豊かなものなのだろうか。高齢者福祉特論では高齢者福祉について、現代社会の法体系、制度、施策などを学ぶとともに、それらの基本的理念と生活の現実の関係を理解する。そして、事例などによって、理念や法などが現実の生活にどのように活かされているのか、また、その課題について理解を深めていく。		
授業計画	第1回	科目オリエンテーション・高齢期の課題について 科目のオリエンテーションを行う。 また、高齢期の課題について議論を通して理解を深める。 教科書①P. 4～7	
	第2回	人生における高齢期 高齢期における心身の変化・家計の変化・生活不安について、テーマを基に討議を通して理解を深める。 教科書①P. 8～20	
	第3回	わが国における社会的状況の変遷 わが国における人口動態や社会構造の変遷、世帯状況や家族のあり方、社会とのつながりのあり方の変遷から、支援のあり方について理解を深めていく。 教科書①P. 22～38	
	第4回	高齢者を支える社会福祉制度の変遷と現状 1980年代、1990年代、2000年以降の高齢者福祉制度の変遷について改めて振り返るとともに、老人福祉法の意義について考える。 教科書①P. 42～53, P. 58～61	
	第5回	わが国における高齢者福祉制度の変遷と地域包括ケアシステム 第4回で学んだわが国における高齢者福祉制度の変遷を踏まえ、地域包括ケアシステムの仕組みとその意義、課題について考える。 教科書①P. 54～57	
	第6回	高齢期を支える介護保険制度 介護保険の概要とその趣旨・目的について改めて理解し、現状の介護保険制度における問題点やその対策について理解を深める。 教科書①P. 68～79	
	第7回	介護保険と介護予防 介護予防の定義を十分に理解した上で、現状の介護予防に関する事業の取り組みやその課題を知り、今後の介護予防のあり方について、討議を通して理解を深める。 教科書①P. 86～87 （配布プリント②P. 103, 113）	
	第8回	自立支援とリハビリテーション 真の自立支援とはなにか、各自の立場から自立について考えて議論する。 また、リハビリテーションの理念を基にして更なる理解を深める。 配布資料	
	第9回	高齢者における虐待・放任・自己放任に対する支援 高齢者における虐待や放任・自己放任について学び、それらの原因や支援策、予防について考える。 教科書①P. 164～180 （配布プリント：参考図書②P. 80～94）	
	第10回	高齢者に対する経済保証制度と医療保障制度 高齢者に対する雇用対策や年金、生活保護、医療制度などの仕組みについて現状の課題と展望を考える。 プリントを配布する（参考図書②P. 60～79）	
	第11回	認知症について わが国に限らず世界中で社会的課題となっている認知症について深く学ぶ。具体的には、「認知症」について、医学モデルに限らず、生活モデルや社会モデルからも捉え、そのとらえ方の歴史の変遷も踏まえて学ぶ。 配布プリント	
	第12回	認知症の地域生活支援 わが国における認知症の国家戦略である認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）について、学ぶと共にその具体的実践の一つである認知症初期集中支援チームを例に、具体的な地域生活支援のあり方について理解を深める。 配布プリント	
	第13回	人生の最終段階における支援 終末期ケアと人生の最終段階における自己決定、その尊重について考える。	

	教科書①P. 182～196 高齢者を支える町づくり 高齢者にとっての生きがいや社会参加の意義も踏まえた、「アクティブエイジング」と「高齢者を支える町づくり」について、自由討議を通してそのあり方について考えを深める。 教科書①P. 198～206 (配布プリント：②P. 144～152) 第14回 まとめ 本科目で学んだことを今後どの様に活かしていくべきか、各自の職場や職能などの特性を踏まえ、改めて考える。 配布資料
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、まとめていく心構えで参加をしてください。特に授業の教材や文献をよく読んでおく必要があります。
評価方法	①課題レポート(60%)、②授業での討論・コメント・授業内課題への取り組み(40%)
テキスト・参考書	テキストは以下の① ①大塩まゆみ・奥西栄介(編著)：高齢者福祉_第3版，ミネルヴァ書房（2018）。 参考書は以下の②以外も、授業の中で随時紹介 ②杉本敏夫・家高将明（編著）：高齢者福祉論_第2版，ミネルヴァ書房（2018）。

講義科目名称： 障害者福祉特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
松永 千恵子			
添付ファイル			

学修目標	障害者福祉における思想と制度的枠組みを理解し、障害者福祉のあり方について自身の価値を構築する。この講義では、海外の障害者福祉についても講義する予定である。日本の障害者福祉、特に施設福祉は海外の影響を受けていることを理解する。		
講義の内容（基本的枠組）	この講義では、障害のある人たちの「人権」を念頭に置きつつ、障害者に対する思想と制度の理解の促進をはかった後、障害者福祉における時事的課題に焦点化し、その対応の到達点と残されている課題について検討していく。 また、15回の講義を通じて履修者が特に興味を持ったトピックについて、各々文献等を利用し、まとめ、その内容を報告する。それにより研究の方法、研究成果の報告の方法、並びに障害者福祉についての理解を深める。		
授業計画	第1回 オリエンテーション・自己紹介 オリエンテーション、自己紹介の後に障害者福祉の歴史を概観する。 障害者福祉の思想 Normalization, Independent Living, Social inclusion, Social exclusion, などを取り上げる。 第3回 障害者人権確立への国連の動き 国際障害者年、ICIDH、アジア太平洋障害者の十年、びわこミレニウムフレームワーク、ICF 第4回 障害者福祉政策の系譜と障害者の権利条約 日本では障害のある人の意見を認めることは、実は21世紀に入ってからだと言っていい。障害者自立支援法による障害福祉サービスから当事者の希望に添ったサービス提供になった。障害者権利条約の内容は衝撃的で日本に多大な影響を与えた。 第5回 障害者権利条約批准への日本の対応1 障害者基本法改正、障害者差別解消法など。2006年の障害者権利条約批准によって障害福祉政策の何が変わったのか説明する。 第6回 障害者権利条約批准への日本の対応2（総括所見について） 2022年9月の日本に対する国連の委員会からの総括所見について説明する。 第7回 英国の障害者施策：特に施設福祉、脱施設化、地域移行について 第8回 英国の障害者施策：特に精神科病院からの退院、脱施設化 第9回 日本の障害者施設、障害児施設からの地域移行、脱施設化 第10回 優生思想の歴史 第11回 罪を犯した障害者への支援 第12回 障害者差別について 滝山病院事件について取り上げる。 第13回 興味のあるトピックのレポート報告1 第14回 興味のあるトピックのレポート報告2 第15回 総括		
受講生への要望	双方向の授業になるよう積極的に発言をしてください。		
評価方法	基準：授業への参加姿勢30%、レポート70%。		
テキスト・参考書	テキストはプリントを配布します。 【参考書】 適宜紹介します。		

講義科目名称： 児童福祉特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年次	2	選択
担当教員			
片山 哲也			
添付ファイル			

学修目標	児童福祉の理念はこどもの権利を保障することである。わが国において児童福祉の基本理念は日本国憲法に立脚する。児童福祉法は成立から60年余が経過した。こどもの権利を保障する考え方は戦前と戦後では大きな相違がある。人権に対する基本的概念、こどもの養育に関する考え方には、180度の転換が見られる。欧米の先進諸国の児童福祉についての歴史や理念を参照にしながら、わが国におけるよりよい児童福祉のあり方を研究する。		
講義の内容（基本的枠組）	小さく幼い子どもを中心に児童福祉の理論と実践についての歴史を振り返り、世界各国とわが国を比較し、日本の児童福祉の特徴を追及する。現在のわが国における児童福祉の長所は何か。短所は何か。海外において模範にできる事例は何かについて考察する。		
授業計画	第1回 自己紹介 児童福祉を要とした乳幼児の人間形成に関するアンケート 第2回 アンケートの結果とわが国における幼いこどもの保育の歩み 第3回 乳幼児の人間形成における世界の歩み 第4回 近代史にみる保育思想史 第5回 ロバート・オーエン フリードリッヒ・フレーベル エレン・ケイ 第6回 マリア・モンテッソーリ Casa dei bambini 第7回 ディベート 第8回 児童福祉とは何か 児童福祉の理念と歴史 児童福祉の定義 保育と児童福祉 第9回 児童福祉の分野 児童福祉の理念 日本国憲法 第10回 児童福祉法 児童福祉の理念 児童福祉の法的根拠づけ 保育の理念 第11回 わが国の児童福祉の歴史 明治期の児童福祉 大正期の児童福祉 昭和期の児童福祉 第12回 平成期の児童福祉 今日の児童福祉に登場した諸問題 第13回 家庭環境をめぐる環境の変化 児童の権利擁護 第14回 こどもに内在する「いのち」を尊重する児童福祉 第15回 まとめ		
受講生への要望	欠席・遅刻は授業時間前に届け出ること。ディベートや・ミニレポート・発表などを通して自分の研究テーマを自主的に調べる。講義内容とみずから選んだ課題について常に意識し、与えられた期限内に問題解決を努める。		
評価方法	定期試験(50%) ミニレポート(30%) の提出 自分の意見の発表(20%) で総合的に評価する。		
テキスト・参考書	才村 純 編著『保育者のための児童福祉論』樹村房 江島正子著『たのしく育て子どもたち』サンパウロ社 マリア・モンテッソーリ著『モンテッソーリの実践理論ーカルフォルニア・レクチャ』サンパウロ社		

講義科目名称： 比較（国際）福祉特論

授業コード： 9206

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年	2	選択
担当教員			
白石 憲一			
添付ファイル			

学修目標	各国の社会保障を比較し、わが国の課題を提起する。		
講義の内容（基本的枠組）	諸外国の社会保障・社会福祉の比較研究を行う。		
授業計画	第1回 本科目の概要 第2回 年金の国際比較 第3回 医療保険の国際比較 第4回 介護保険の国際比較 第5回 雇用保険の国際比較 第6回 公的扶助制度の国際比較（1） 第7回 公的扶助制度の国際比較（2） 第8回 社会保障の類型（1） 第9回 社会保障の類型（2） 第10回 ナッジの概要 第11回 国内外のナッジの事例 第12回 公共政策としてのナッジ 第13回 データで見るナッジ 第14回 国内外の地域福祉の動向 第15回 国内外の地域福祉の事例		
受講生への要望	国際関係に常に関心を持って臨んでほしい。		
評価方法	基準：プレゼン50点、レポート50点。		
テキスト・参考書	G・エスピン-アンデルセン 著『福祉資本主義の三つの世界：比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房		

講義科目名称： 福祉心理特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年	2	選択
担当教員			
植原 美智子			
添付ファイル			

学修目標	福祉心理学の概要を学ぶとともに、福祉現場で生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに当該領域の研究論文を読み、社会福祉の対象となる人々に対する支援を心理学的観点から考察する。
講義の内容（基本的枠組）	福祉心理学はきわめて新しい学問である。この学問は、社会福祉に関連するテーマをもつ臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学の各領域の知見を活用し、その一方で福祉関連現場における日常的な心理臨床的実践の積み重ねによって、日々新たな福祉心理学として創出され続けている学問と言える。 本講義では、福祉心理学の対象領域である子ども家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉の主要3領域における関連基本概念を紹介する。そのうえで、各領域の福祉の現場において、どのような問題があるのか、問題をどのように理解して実際の支援につなげていくか、心理学的視点から理解を深める。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 福祉心理学原理 第3回 福祉心理学の歴史と研究方法概論 第4回 福祉心理学的支援の基盤 第5回 子ども家庭福祉領域Ⅰ 第6回 子ども家庭福祉領域Ⅱ 第7回 障害者福祉領域Ⅰ 第8回 障害者福祉領域Ⅱ 第9回 高齢者福祉領域Ⅰ 第10回 高齢者福祉領域Ⅱ 第11回 地域福祉領域Ⅰ 第12回 地域福祉領域Ⅱ 第13回 少子化問題と福祉心理 第14回 高齢化問題と福祉心理 第15回 まとめ
受講生への要望	事前に関連文献を読み、各自が疑問点や検討点をまとめておく。授業では意見交換し、自らの考えを深める。
評価方法	授業内コメント30点、授業内レジュメ30点、レポート40点。
テキスト・参考書	【参考書】 福祉心理学(2021) 日本福祉心理学会 明石書店 福祉心理学(2017) シリーズ心理学と仕事 太田 信夫（監修） 小畑 文也（編集） 北大路書房 授業内で随時指示

講義科目名称： 福祉サービス市場特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年次	2	選択
担当教員			
加部 仁			
添付ファイル			

学修目標	2000年の介護保険施行以来、福祉サービス市場における高齢者サービスの供給量は爆発的な増加を見せた。それに伴い供給主体や介護サービス(事業所)の種類も多岐に渡るようになってきていることから、本授業では高齢者介護分野に絞ってサービス毎の特徴やその市場性を把握する。また本授業では実際の介護サービス事業者の事例検討や見学訪問を通じて、サービスマーケティングやアカウンティングの視点から、その成功要因を分析し自身の追体験としてインプットする。 その上で、受講者が現在所属する法人および事業所における課題についての対		
講義の内容（基本的枠組）	①市場の理解と市場における立ち位置の確認 ②市場理解のための基本的ツールの作成 ③福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 ④市場の分析手法 ⑤福祉事業の組織と経営 ⑥近年の市場トレンドと課題		
授業計画	第1回 福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 第2回 福祉事業経営の歴史と報酬改定から見る市場の変遷 第3回 SWOT分析、5 force分析 第4回 実際の介護サービス事例検討 第5回 バリューチェーン分析 第6回 実際の介護サービス事例検討 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント 第8回 実際の介護サービス事例検討 第9回 マーケティングの3CとSTP 第10回 実際の介護サービス事例検討 第11回 サービスマーケティングミックス 第12回 実際の介護サービス事例検討 第13回 福祉事業の組織と経営 第14回 近年の市場トレンドと課題 第15回 課題分析の提示		
受講生への要望	市場は生き物です。講義だけでは市場を理解することはできません。普段よりの回りの出来事に感覚を研ぎ澄ましておき、興味を持つことが大切です。受け身にならず、授業への主体的な参加を期待します。		
評価方法	最終発表40%、レポート60%		
テキスト・参考書	【テキスト】 ・各回の授業テーマに基づいた教材を提供します 【参考書】 ・授業内で適宜指示します		

講義科目名称： 社会調査特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
白石 憲一			
添付ファイル			

学修目標	・統計的考え方の理解。 ・統計分析の手法の習得。 ・データから豊かで実りのある情報を引き出すための技法の習得。 ・データ分析の進め方の習得。 ・統計ソフトの操作の習熟。 ・統計理論の習得。
講義の内容（基本的枠組）	本講座は、数量データの分析をするために、どのような知識や手法が必要となるかを説明する。具体的には、相関係数、カイ2乗検定、t検定、回帰分析の手法を中心に学習していく。授業ではパソコンとデータを用いて、実践形式で学習していく。最後に各自の関心に従って、受講生自らが研究計画を立て、数量データによる統計分析を行っていく。
授業計画	第1回 インTRODakション 第2回 統計分析の進め方 第3回 データの収集と編成 第4回 グラフ表現 第5回 統計ソフトの基本操作 第6回 データのばらつき 第7回 データの操作と比較 第8回 散布図と相関係数 第9回 データの品質 第10回 クロス集計表と仮説検定 第11回 平均値の差の検定 第12回 回帰分析(1) 第13回 回帰分析(2) 第14回 統計分析プロジェクト(1) 第15回 統計分析プロジェクト(2)
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価方法	授業時課題40%、試験等60%
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

講義科目名称： 社会福祉経営研究・演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	2	必修
担当教員			
田中 博一			
添付ファイル			

学修目標	福祉サービス事業者がサービスの実施責任者となり、福祉サービスニーズの量的拡大と質的多様化に対応するために、福祉サービス提供事業者が経営戦略が求められる。経営理念、組織改革およびそのマネジメント、職員の働き方の在り方等「措置」時代からの脱却が進んでいる。これら、社会福祉構造改革の下で、利用者の尊厳の保持を念頭に福祉の経営戦略の構築を目指す。上述した各課題について各自のテーマとリンクさせて、事例検討を行い、それぞれの経営戦略の構築を行う。各自の研究報告を中心に展開する		
講義の内容（基本的枠組）	1 社会福祉法の概要とこれからの方向性 2 高齢者入所事業の経営戦略 3 高齢者通所事業の経営主体別経営戦略 4 児童福祉サービス事業（保育所・放課後デイサービス）の経営・運営課題 5 児童福祉サービス事業（児童養護施設・児童自立支援施設）の経営課題 6 障害者のサービス別事業体の経営戦略 7 社会福祉経営の基本		
授業計画	第1回	インTRODクシヨン 各自が関心のあるテーマを説明し、授業計画とその実行について話し合う。	
	第2回	社会福祉法改正の動き 1 近年、時代の変化に合わせて社会福祉法の改正が行われている。福祉サービス事業者が経営戦略を構築するにあたって、この動きを認識することが不可欠である。法改正の動向に合わせて、法第6章に定める社会福祉法人の変化を考察する。	
	第3回	社会福祉法改正の動き 2 社会福祉法人の組織ガバナンスの実際と課題の事例を研究する。組織の在り方、透明性、財務規律の改革等について検討する。	
	第4回	4 社会福祉法改正の動向 3 地域包括ケアの強化、地域共生社会の創造等これまで以上に社会福祉サービス提供者は地域と一体となる方向性が展望される。その在り方の基本を考察する。	
	第5回	高齢者入所事業の経営戦略 1 特別養護老人ホームの組織管理、人的資源管理の課題を明らかにし、組織と働き方の改革を進める方法を考察する。	
	第6回	高齢者入所事業の経営戦略 2 引き続き、特別養護老人ホームの課題を検討する。	
	第7回	有料老人ホームの経営戦略 1 有料老人ホームは2000年の介護保険法で特定施設入居者生活介護と位置付けられ、2006年の老人福祉法改正により有料老人ホームの定義なされた。その量は飛躍的の増加している。とりわけサービス付き高齢者住宅の現状と課題を考察する	
	第8回	有料老人ホームの経営戦略 2 「有料老人ホーム設置運営基準指導指針」と有料老人ホームの経営と課題	
	第9回	有料老人ホームの経営戦略 3 有料老人ホームを利用者視点で経営戦略を見る。利用者保護やその仕組みを検討する。	
	第10回	高齢者の在宅サービス事業者の諸課題とその改革についてⅠ 訪問介護サービス、デイサービス、地域密着型サービス事業者の実態を把握し、課題を検討する	
	第11回	高齢者の在宅サービス事業者の諸課題とその改革についてⅡ 訪問介護サービス事業者の事業者主体別課題検討 その1	
	第12回	高齢者の在宅サービス事業者の諸課題とその改革についてⅢ 訪問介護サービス事業者の事業者主体別課題検討 その2	
	第13回	高齢者の在宅サービス事業者の諸課題とその改革についてⅣ 地域包括ケアシステム構築における介護サービスのこれからの展望を考察する。	
	第14回	児童福祉サービス事業者の諸課題とその改革についてⅠ 少子社会の流れを止めるために種々の政策が打ち出されている。少子化対策基本法、次世代育成支援対策推進法に基づく国及び都道府県、市町村の行動計画、及び昨今の政府の少子化対策の柱の一つである「幼児教育や保育サービスの量・質の面からの強化」を検討している。これらの政策の動向を踏まえ、保育ニーズに対応するサービス提供の課題を考察する。	
	第15回	児童福祉サービス事業者の諸課題とその改革についてⅡ 保育サービスもサービス提供者の多様化が進んでいる。中小から大企業まで「保育産業」への参入があり、株式会社によるフランチャイズ化される形態も生まれている。保育産業の構造と個別の保育事業展開を考察する。	
	第16回	児童福祉サービス事業者の諸課題とその改革についてⅢ	

	「企業主導型保育事業」の内容と設置・運営の要点を理解し、設置計画を作成する。
第17回	児童福祉サービス事業者の諸課題とその改革についてIV 前回の「企業主導型保育事業」継続検討
第18回	児童福祉サービス事業者の諸課題とその改革についてV 「こどもの貧困」に表現されるように、「困っている子ども」の存在が社会問題化している。社会的養育の視点から、養護施設が現代直面している処遇と経営課題について考察する。
第19回	障害者福祉サービス事業者の諸課題I 障害者基本法、障害総合支援法制定過程を理解し、現代の障害者福祉サービス事業についての座標軸を認識する。
第20回	障害者福祉サービス事業者の諸課題II 障害者総合支援法の給付サービスのうち、介護給付、訓練給付、市町村の地域生活支援事業の提供主体（事業者）の諸課題を提示し、その改革の工夫を検討する。
第21回	障害者福祉サービス事業者の諸課題III 訓練給付にある障害者就労支援サービス事業者の事業実態を知り、とりわけ就労継続支援B型事業所の経営上の諸課題を検討し、これからの展望を示す。
第22回	障害者福祉サービス事業者の諸課題IV 障害者の雇用支援でソーシャルファームが注目されてきている。その、現状と経営上の課題を取り上げる。
第23回	障害者福祉サービス事業者の諸課題V スウェーデンのサムハル社の障害者雇用事例を検討する
第24回	障害者福祉サービス事業者の諸課題VI アメリカの障害者就労支援の民間事業者の雇用開拓活動事例を検討する。
第25回	社会福祉経営管理の必要性 介護保険導入後の2008年に労働基準局の監督で社会福祉事業者の労働基準違反率は75%であり信じられないものであった。その後、賃金を含む処遇改善や雇用改善が進んだが、これは介護人材不足の解決のための政府主導のものであった。本来、これらは、法定基準を遵守したうえで労使が決定するものであるが、”労使の“視点が欠けていた。まずは”使“の自覚が必要である
第26回	社会福祉経営管理の理論と哲学 社会福祉サービスは言い換えればヒューマンサービスである。ヒューマンサービスマネジメントのコンセプトの変遷をたどり、関連する諸理論が導入された過程を理解する。
第27回	社会福祉経営管理と組織改革 社会福祉サービス事業者のミッション達成のためのフォーマル・インフォーマルな組織改革をすすめる、組織の柔軟性を考察する。
第28回	社会福祉経営管理とマネジャーの役割 マネジャーの責任は多々ある。例えば、財務の確立、職員採用計画の策定、職員の職務評価、組織の活動結果の評価等である。マネジャーの責任と役割を明確にする。
第29回	社会福祉経営管理と人的資源マネジメント 組織のパフォーマンスを最大限にする人的資源管理計画を作成しそれを評価する
第30回	まとめ 1年間の研究を振り返り、この研究で得た成果を討論する。
受講生への要望	授業への積極的な参加と取り組み（授業外学修、レポート作成、主体的な発言）を期待します。
評価方法	授業への出席・参加・発言（40%）と課題レポート（60%）を目安として総合的に評価します。
テキスト・参考書	k京極高宣『福祉法人の経営戦略』中央法規 2017

講義科目名称： 福祉事業経営特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
田中 博一			
添付ファイル			

学修目標	現代の社会福祉構造改革下における社会福祉サービス事業の提供主体の経営戦略の必要性を認識し、社会福祉事業サービス事業マネジメントの構造を理解する。とりわけ、経営組織と働き方の関係について多様な考え方を示すことができるようにする。また、それらの知識を踏まえ、現代的課題に取り組む。		
講義の内容（基本的枠組）	1 福祉経営をとりまく福祉施策の潮流 2 社会福祉サービス事業の組織とマネジメント 3 社会福祉サービス事業の現代的課題		
授業計画	第1回	① イントロダクション 授業計画の説明と各自が自身の研究テーマの概要を述べる。	
	第2回	福祉8法改正（1990）と社会保障の再構築（1995） 1990年代前半の社会福祉構造改革の流れを理解し、社会保障制度再構築における社会福祉サービス事業の変化を理解する	
	第3回	社会福祉構造改革 1 1990年代後半から2000年初頭にかけて、社会福祉事業の「市場化」と規制緩和が行われ、増大するサービス需要に対応するために民間企業の参入等のサービス提供主体の多様化が進んだ。サービス提供主体のそれぞれの特徴を理解する。	
	第4回	社会福祉構造改革 2 社会福祉構造改革は、サービス利用者がサービス提供者と対等の立場でサービス利用契約をする。利用者はサービス事業者を自分の意志で選択できるシステムなり、事業提供者は「措置」時代の経営感覚ではなく「権利性」を備えていることを認識する。	
	第5回	社会福祉法17年改正の視点 社会福祉法人の巨額内部留保が社会的な問題となり、社会福祉法人の制度改革が行われた。経営組織ガバナンスの強化や事業の透明性、財務規律の強化等社会福祉法人の在り方が問われた。公共性を求められる社会福祉法人に説明責任がある。社会福祉法人の社会的責任を認識する。	
	第6回	① 社会福祉サービス事業者の経営主体と経営戦略 社会福祉サービス提供主体（事業者・法人）の多様化が進んでいる。民間の事業者は社会福祉法人、NPO法人そして株式会社に代表される民間営利企業である。それぞれの法人の現況と特徴および経営戦略を理解する。	
	第7回	社会福祉サービス事業者の組織管理1 高齢者施設、とりわけ特別養護老人ホームの組織とその業務の範囲を理解し、よりパフォーマンスの高い組織形態を考える。また障害者入所サービス事業では公的規制と外部要因の影響をより多く受ける領域であるが、そのような条件において、経営の安定化と利用者中心を第一にした質の高いケアを遂行できる組織改革を考察する。	
	第8回	社会福祉サービス事業者と地域ネットワークの構築 社会福祉法2020年改正は“地域”がキーワードであり、“地域住民の複雑化・複合化した支援体制の構築”支援が始まっている。社会福祉サービス事業者として、地域住民を組織に内包するサービス提供の在り方のためのネットワークの構築を考える。	
	第9回	社会福祉サービス事業組織の人的資源管理 1 ヒューマンサービス事業組織の特徴を踏まえ、ジョブディスクリプション、職務設計戦略を中心に、職務の改革あるいはあり方を考察する。	
	第10回	社会福祉サービス事業組織の人的資源管理 2 近年、福祉人材確保と経営の効率化のために、キャリアパスの構築とそれに連携するキャリア形成制度を導入するサービス事業者が増えつつある。専門職としての責任と自律性のある人材の組織内におけるマネジメントの実際と課題を考察する。	
	第11回	社会福祉サービス事業とITC 医療・介護のデーター基盤の整備が進む中で、データーを活用して地域に質の高いサービス提供時代の到来によって、社会福祉サービス事業におけるITCの活用を検討する。ロボット、組織内外の情報の共有、PHIM（個人の健康情報管理）等について考察する。	
	第12回	社会福祉法人の解散・合併及び社会福祉連携推進法人の現状と課題 社会福祉法人は約9割が従業員100人未満の中小零細事業者である。社会福祉法人の経営安定化のために、法人の合併・解散が行われている。令和4年4月から導入された社会福祉連携推進法人の内容と現状を検討する。	
	第13回	外国人介護従事者の諸課題 3年毎に策定される介護保険事業計画で示される介護職員の必要見込み数で人材不足が示されている。外国人介護職員受け入れもその解決策のひとつとなっている。EPA、技能実習生制度、特定技能制度を検討し、外国人介護職員問題を考察する	
	第14回	社会福祉サービスにおける生産性について 1人当たりのGDPが、かつてOECD国の3位（1994）が18位（2016）となり、その凋落の改善のために、国は生産性の向上を謳った。とりわけ、福祉（保健衛生・社会事業）は製造業の半分以下であり、昨今、労働生産性の向上の議論が起こっている。高齢者福祉事業における生産性の向上を	

	第 1 5 回 検討する 法人理念と利用者保護・尊厳の保持・利用者満足度 社会福祉サービス事業の目的は、利用者の尊厳の保持と自立支援である。利用者中心の事業展開において、経営理念との整合性を踏まえ、その構築と職員に浸透させる手法について、事例研究する。
受講生への要望	授業過程は3つのセッション分けている。1， 2 のセッションは講義中心にすすめ、3 のセッションは受講生の方向をベースにする。活発なディスカッションを期待する。
評価方法	授業時のレジュメ・発言、報告 40% 期末レポート 60%
テキスト・参考書	テーマ別に授業で紹介する

講義科目名称： 福祉施設経営特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
中越 信一			
添付ファイル			

学修目標	福祉事業を担う民間事業者の動きは本格的にはまだ20年程の浅い歴史的な位置付けであるが、産業としての比重は高い。そこで、福祉事業経営の基本的コンセプト、リスクマネジメント、運営管理、資金調達等の基本を学ぶ。
講義の内容（基本的枠組）	1. 福祉事業経営の変遷 2. 行政と福祉事業経営 3. 福祉事業経営の労務管理 4. 福祉事業の経営実態 5. 福祉事業経営とリスクマネジメント 6. 福祉事業経営の運営管理 7. 福祉事業経営の将来と課題
授業計画	第1回 福祉事業経営の変遷 第2回 行政と福祉事業経営(予算の決定) 第3回 行政と福祉事業経営(許認可システム) 第4回 福祉事業経営の決算書の読み方 第5回 福祉事業の労務管理 第6回 民間介護事業における労務管理の現状 第7回 在宅介護事業の経営実態、特別養護老人ホームの経営実態 第8回 有料老人ホームの経営実態 第9回 福祉事業経営とリスクマネジメント-I 第10回 福祉事業経営とリスクマネジメント-II 第11回 有料老人ホームの運営管理(コンプライアンス、情報公開、第三者評価) 第12回 有料老人ホームの目標管理と人事評価・研修 第13回 福祉事業経営(その他諸問題) 第14回 福祉事業経営(その他諸問題) 第15回 福祉事業経営の将来と課題
受講生への要望	講義形式となるが、各講義の中で質問を受けることと、より理解を深めるために、議論の展開を期待します。
評価方法	ディスカッションへの参加(50%)、レポートの提出(50%) による評価
テキスト・参考書	【テキスト】 ・各回の授業テーマに基づく教材を提供する 【参考書】 ・『非営利組織の経営』 ドラッカー著 ダイアモンド社

講義科目名称： 人事労務管理特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年次	2	選択
担当教員			
森田 隆夫			
添付ファイル			

学修目標	現代社会福祉事業における労務管理の意義を理解するとともに、人事・労務法制、判例等を通じて具体的に思考すること。		
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉事業の経営管理における人事・労務管理の意義と効用について概観するとともに、これに関わる法制度や理論を法令、通達、判例および事件を通して具体的実務的に研究する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の開始にあたって、授業の進め方、成績評価の方法（レポート課題内容の提示）を説明したうえで、授業で検討する判例の取り扱い方法を講義する。	
	第2回	我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理 社会福祉事業における組織の意義、組織原則、組織管理の実際について概説し、討議を行う。	
	第3回	人事管理の基本的事項の概説 社会福祉事業における人事管理の目的・機能、社会福祉サービスにおける人事管理について概説し、討議を行う。	
	第4回	労務管理の意義 社会福祉施設における労務管理の意義、職場における人間関係の管理、労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。	
	第5回	労務管理と労務法制 社会福祉施設における労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。	
	第6回	労働契約法のあらましⅠ 労働契約法における総則、労働契約の成立及び変更の各条文につき概説し、討議を行う。	
	第7回	労働契約法のあらましⅡ 労働契約法における労働契約の継続及び終了、期間の定めのある労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。	
	第8回	労働基準法のあらましⅠ 労働基準法における総則、労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。	
	第9回	労働基準法のあらましⅡ 労働基準法における賃金の各条文につき概説し、討議を行う。	
	第10回	労働基準法のあらましⅢ 労働基準法における労働時間、休憩、休日及び年次有給休暇の各条文につき概説し、討議を行う。	
	第11回	労働基準法のあらましⅣ 労働基準法における年少者、妊産婦等、就業規則の各条文につき概説し、討議を行う。	
	第12回	労働組合法、労働関係調整法のあらまし 労働組合法、労働関係調整法の主要な条文につき概説し、討議を行う。	
	第13回	労働関係判例の動向等Ⅰ 労働契約法に関する判例につき概説し、討議を行う。	
	第14回	労働関係判例の動向等Ⅱ 労働基準法に関する判例につき概説し、討議を行う。	
	第15回	労働関係判例の動向等Ⅲ 労働基準法、労働組合法、労働関係調整法に関する判例につき概説し、討議を行う。	
受講生への要望	予習、復習を行うこと。質問に答えてもらう場合もあるので、特に事前の学習を心掛けて頂きたい。 学部で憲法、社会福祉法制等の授業を受けておくことが望ましい。		
評価方法	プレゼン(40%)、提出課題の内容(60%)により判断する。		
テキスト・参考書	【テキスト】 ・宇山勝儀・小林理 編著「社会福祉事業経営論」光生館 2011年 【参考書】 ・講義時にその都度説明する。		

講義科目名称： 地域福祉経営特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
村山 明彦			
添付ファイル			

学修目標	わが国における地域福祉の発展や枠組み、その推進方法と発想についての知見を深め、地域福祉の政策とその管理運営についての理解を深めることを目標とする。
講義の内容（基本的枠組）	教科書および資料を使用して、以下の4つの柱を立て授業を実施する。 1. エビデンスに基づく地域福祉、2. 地域包括ケア政策、3. 超高齢人口減少社会のまちづくり、4. 生涯活躍のまち
授業計画	第1回 オリエンテーション、エビデンスに基づく地域福祉 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/ 厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 第2回 地域包括ケアのまちづくり 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 3-24 第3回 介護保険事業計画と今後のまちづくり 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 35-48 第4回 在宅医療介護連携推進事業の取り組みの実践と体系 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 51-69 第5回 フレイル予防の推進：エビデンスから地域のアクションへ① 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 70-84 第6回 フレイル予防の推進：エビデンスから地域のアクションへ② 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 112-134 第7回 生涯現役促進地域連携事業の展開 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 135-146 第8回 生活支援システムの開発と普及方策 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 146-184 第9回 産官学民協働による新たなまちづくりの展開 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 187-201 第10回 データ解析を通じたハイリスクアプローチに向けての更なる展開 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 201-218 第11回 地域包括ケア政策とコンパクトシティ政策の融合 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 219-222 第12回 コンパクトな地域包括ケアのまちづくりのモデル化 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 223-228 第13回 地域のネットワークを支える情報システムの構築 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 229-240 第14回 生涯活躍のまち（日本版CCRC構想） 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 241-249 第15回 生涯活躍のまち（日本版CCRC構想）／まとめ 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp. 251-253
受講生への要望	教科書の該当ページの内容を把握したうえで、主体的に授業に参加することが望ましい。
評価方法	授業内のプレゼンテーション（40％）と課題レポート（60％）を目安として総合的に評価する。
テキスト・参考書	地域包括ケアのまちづくり - 老いても安心して住み続けられる地域を目指す総合的な試み - ． 東京大学高齢社会総合研究機構 編．東京大学出版会，2020．

各回のテーマに関連する資料も事前に配布する。

講義科目名称： 社会福祉行財政特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
松原 直樹			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や自治体の抱える社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策の在り方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。		
講義の内容（基本的枠組）	『現代社会福祉行財政論』で挙げられている社会福祉行財政を取り巻く今日的な課題を検討していく。そうした課題を検討していくに際して、自治体や施設における具体例をできる限り取り上げていくこととする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、社会保障の現状における課題 少子高齢化社会の進展により、社会保障制度の役割は高まっており、また、社会保障財政への国民全体としての負担が著しく増加している。また、非正規労働者の増大は「格差社会」を進行させることとなった。まずは、こうした状況下での社会保障の現状における課題を取り上げて、その概要を検討する。	
	第2回	社会保障関係費の国際比較 国際的に福祉国家の性格は変容してきているが、それでも少子高齢化の特徴をもつ欧米諸国と日本、あるいは欧米諸国間では社会保障行財政に異なりがある。各国の特徴と問題点を検討していく。	
	第3回	公的扶助の課題 格差社会の進行とともに公的扶助をめぐる問題が争点となってきた。生活保護行政をめぐることは、訴訟で争われるケースも多くなっている。公的扶助をめぐる問題と議論について、検討をしていく。	
	第4回	社会福祉の法体系 社会福祉基礎構造改革・介護保険法施行・後期高齢者医療制度創設及び障害者総合支援法成立という一連の流れの中で形成されてきた社会保障・社会福祉の法体系とその問題について検討する。	
	第5回	社会保障と社会福祉の財政の体系 戦後の社会保障および社会福祉行財政の展開について概観し、その転換点での課題と施策について、検討する。特に、社会保障に係る財政支出の増大への対応を中心に検討を行う。	
	第6回	年金保険制度と年金保険財政 年金保険制度の現状について、その経緯に沿って検討する。特に税・社会保障に関する大きな制度改革を引き起こした「基礎年金の国庫負担率2分の1」と被用者年金の「厚生年金への一本化」の経緯を中心に検討する。	
	第7回	年金保険財政の課題と年金改革 最新の年金改革法と今後の課題について、検討する。ベーシックインカム年金やミニマムペンションなどに関する議論や諸外国の例も参考に検討する。	
	第8回	介護保険制度改革 2000年の制度施行以来、4度にわたって実施されてきた介護保険の見直し・改革について概観し、それによって生じた影響について検討する。	
	第9回	介護保険制度の課題 市町村における介護保険制度の現状と課題について、前橋市をはじめとする群馬県の市町村を例として、検討していく。	
	第10回	在宅での医療費・介護費の現状と課題 在宅での医療及び介護サービスを利用している高齢者にとって、費用負担は大きな問題であり、また十分なサービス供給にも課題が多い。地域包括ケアシステムの中で、特に医療・介護をめぐる費用の現状とどのようなものであり、またどのような課題が存すのかについて、具体的なモデルを検討していく。	
	第11回	少子化社会対応への国際比較 欧米およびアジアの合計特殊出生率をはじめとした少子化に関わるデータを検討した上で日本の現状を理解し、さらに各国の少子化対策について、検討をする。	
	第12回	子育て支援対策と課題 子育て支援対策について、予算面から検討する。次に、子ども・子育て新制度により、子育て世代にとってどのような影響があったのかについて、検討する。また、子育てにおける「新しい公共」の役割についても検討する。	
	第13回	福祉国家の危機 先進諸国では、福祉に関わる財政負担の増大により、財政危機が叫ばれている。「小さい政府」や「福祉ミックス論」などについての議論もなされている。また、エスピン・アンデルセンによる「福祉国家の3類型」論が議論されている。そうした福祉国家に関する国際的な議論を検討する。	
	第14回	「新たな公共」をめぐる課題 従来の国及び地方自治体による福祉行政を補完する「新たな公共」についての議論が提起されている。「指定管理者制度」や「NPO法人」及び「コミュニティ」の役割が求められてきている。国・地方自治体の果たすべき権限との関係で検討していく。	

	第15回 全体のまとめ 社会福祉行財政の現状についてまとめ、これまで学習した中でも、とくに喫緊の課題としてあげられるものとその対応策について話し合い、検討する。
受講生への要望	範囲に指定された部分のテキストを良く読んでおき、不明な点、疑問点は事前に明らかにしておく。各回のテーマに関して、自分なりの検討しておくこと。
評価方法	レポート50%、受講状況・姿勢50%
テキスト・参考書	【テキスト】 使用しない。 【参考書】 坂本忠次『現代社会福祉行財政論』大学教育出版 『福祉行財政と福祉計画』中央法規出版 宇山 勝儀 他・編著『社会福祉行政論(行政・財政・福祉計画)』 ミネルヴァ書房

講義科目名称： 地域福祉経営研究・演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	2	選択
担当教員			
稲葉 一洋			
添付ファイル			

学修目標	地域福祉の現代的な機能と文脈、それを踏まえた地域福祉の政策(計画)と、その管理・運営についての理解を深める。そのための講義を行うとともに、受講生によるレポートの作成、教室での発表や対話を通じて、今日的な地域福祉とその経営の視点と考え方の習得を目標とする。		
講義の内容（基本的枠組）	①近年社会福祉政策のあゆみと発想を学ぶ。 ②地域福祉経営の基本的枠組みを学ぶ ③「自助・共助・公助」枠組みによる地域福祉経営を学ぶ。 ④地域における地域福祉経営の展開を学ぶ。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 「地域福祉経営論」「地域福祉の政策(計画)」をキーワードに、本授業のオリエンテーションを行う。	
	第2回	福祉制度改革以前の社会福祉 「社会福祉事業法」「中央(国)主導」「施設福祉」「措置制度」「社会福祉協議会基本要項」をキーワードとして理解する。	
	第3回	1990年代の福祉制度改革 「今後の社会福祉のあり方について」「ゴールドプラン」「福祉関係八法の改正」をキーワードとして理解する。	
	第4回	1990年代の地域福祉の展開 「分権化」「計画化」「社会福祉基礎構造改革」「地方分権一括法」をキーワードとして理解する。	
	第5回	2000年代の社会福祉① 「社会福祉法」「自立支援」「契約(利用)制度」「地域福祉の推進」キーワードとして理解する。	
	第6回	2000年代の社会福祉② 「地域福祉の停滞」「マクロな生活保障」「ミクロな生活支援」をキーワードとして理解する。	
	第7回	2010年代の社会福祉 「地域共生社会」「介護保険法改正」「新たな時代に対応した福祉提供ビジョン」をキーワードとして理解する。	
	第8回	2017年「社会福祉法」改正① 「地域福祉理念の明確化」「地域生活課題」「包括的支援体制の整備」をキーワードとして理解する。	
	第9回	2017年「社会福祉法」改正② 「地域福祉理念の明確化」「地域生活課題」「包括的支援体制の整備」をキーワードとして理解する。	
	第10回	2020年「社会福祉法」改正 「社会福祉法総則」「重層的支援体制整備事業」をキーワードとして理解する。	
	第11回	近年社会福祉政策のまとめ 「地域共生社会」「包括的支援体制の整備」「地域福祉の主流化」をキーワードとして理解する。	
	第12回	地域福祉経営の基本枠組み－主体・対象・方法 「地域福祉の主体」「地域福祉の対象」「地域福祉の方法」をキーワードとして理解する。	
	第13回	地域福祉の主体① 「政策主体」「実践主体」「経営主体」をキーワードとして理解する。	
	第14回	地域福祉の主体② 「市町村」「コミュニティ」「ローカルガバナンス」をキーワードとして理解する。	
	第15回	地域福祉の対象① 「政策対象」「実践対象」「必要(ニーズ)」「生活問題」をキーワードとして理解する。	
	第16回	地域福祉の対象② 「生活問題」「地域生活課題」をキーワードとして理解する。	
	第17回	地域福祉の方法① 「福祉政策」「ソーシャルワーク」「地域共生社会」をキーワードとして理解する。	
	第18回	地域福祉の方法② 「社会資源」「地域性」「地域福祉計画」をキーワードとして理解する。	
	第19回	地域福祉経営の基本枠組みのまとめ 「地域福祉経営の主体」「地域福祉経営の対象」「地域福祉経営の方法」をキーワードとして理解する。	

	第20回	「自助・共助・公助」の枠組み① 「自助」「共助」「公助」「補完性の原理」をキーワードとして理解する。
	第21回	「自助・共助・公助」の枠組み② 「自助」「互助」「共助」「公助」をキーワードとして理解する。
	第22回	「自助・共助・公助」の布置連関① 「自助・共助・公助」「家族福祉」をキーワードとして理解する。
	第23回	「自助・共助・公助」の布置連関② 「自助・共助・公助」「家族福祉」をキーワードとして理解する。
	第24回	「自助・共助」と「公助」の構図 「相互依存」「集団的自助」「公私二分論」をキーワードとして理解する。
	第25回	「自助・共助・公助」による地域福祉経営のまとめ 「相互依存」「集団的自助」「公助の役割」をキーワードとして理解する。
	第26回	市町村における地域福祉の構築① 「地域福祉計画」「住民参加」「総合化」をキーワードとして理解する。
	第27回	市町村における地域福祉の構築② 「行政努力」「住民参加」「協働化」をキーワードとして理解する。
	第28回	市町村における地域福祉の構築③ 「重層的圏域」「協働・連携」をキーワードとして理解する。
	第29回	市町村における地域福祉の構築④ 「包括的支援体制の整備」「協働化」「地域づくり」をキーワードとして理解する。
	第30回	本授業のまとめ これまでの授業を振り返って、本授業のまとめを行う。
受講生への要望	授業への積極的な取り組みと参加(授業外学習、レポート作成)を期待します。	
評価方法	授業への出席・参加・発言(50%)と課題レポート(50%)を目安として総合的に評価します。	
テキスト・参考書	【テキスト・参考書】 稲葉一洋『新地域福祉の発展と構造』学文社、2016年	

講義科目名称： ソーシャルワーク特論Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
安留 孝子			
添付ファイル			

学修目標	ソーシャルワークで用いられる専門的な援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握と実践が行えるようになる。		
講義の内容（基本的枠組）	個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。更に自身の実践の省察を行う。		
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 治療モデル・環境モデル・生活モデル 第3回 ストレングスモデル 第4回 心理的アプローチ 第5回 機能的アプローチ 第6回 問題解決アプローチ 第7回 危機介入アプローチ 第8回 行動変容アプローチ 第9回 エンパワメントアプローチ 第10回 組織におけるソーシャルワーク 第11回 組織におけるソーシャルワークに関する演習 第12回 チームアプローチ 第13回 地域におけるソーシャルワーク 第14回 地域におけるソーシャルワークⅠ 第15回 地域におけるソーシャルワークⅡ		
受講生への要望	課題等について可能な限り議論を行うので、主体的に授業に参加することを望む。		
評価方法	資料の輪読の発表内容、主体性を持ち新たな視点で積極的に授業に取り組んでいるかで50%評価。課題レポート内容で50%評価を基本とする。		
テキスト・参考書	資料を配布する。参考書は適宜紹介する。		

講義科目名称： ソーシャルワーク特論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
真下 潔			
添付ファイル			

学修目標	1. ソーシャルワークについて学んだ理論等をスキルに結びつける。 2. 事例研究（児童福祉）を主にソーシャルワークの多様性を理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルを研究活動に活かす。 4. 他職種との連携と協働を理解する。
講義の内容（基本的枠組）	1. ソーシャルワークの実践的モデルの分析と展開 2. ソーシャルワークの事例研究（児童福祉） 3. 家庭支援の実際（現代の家族の変容） 4. 多職種連携
授業計画	第1回 イントロダクション・ジョイニング 第2回 テーマの設定と設計 第3回 多職種連携と協働 第4回 事例研究 第5回 相談者への対応 第6回 事例研究 第7回 ケースワークの仕組み 第8回 事例研究 第9回 相談者の環境の特性 第10回 事例研究 第11回 親と子を取り巻く社会の状況 第12回 事例研究 第13回 「家族」を考える 第14回 事例研究 第15回 授業の総括
受講生への要望	積極的な意見発言を望む。そのために、課題に沿った文献をリストアップし、読めるようにすること。
評価方法	1. 授業への積極的参加と発言等取り組み30% 2. レポート70%
テキスト・参考書	テキストは特になし。講義のなかで補完していく。これまでのテキストを活用したい。

講義科目名称： ケアマネジメント特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
白石 憲一			
添付ファイル			

学修目標	若い、病、心身の障害等を担っている人々の生活課題について、国家はそれらの人々が幸せを求め、人間に値する生活が保障されるよう法制度による生活支援の施策を講じている。ケアマネジメントは、その制度・施策が法の理念に即して適時・適切に行われるための社会的意義と方法について学ぶ。そしてケアマネジメントの価値・知識・技術を身につける。		
講義の内容（基本的枠組）	(1) ケアマネジメントの社会的存在の意義と役割について学ぶ。 (2) ケアマネジメントにおける生活支援の意義と実践について学ぶ。 (3) ケアマネジメントの展開過程について学ぶ。 (4) 事例演習によって、ケアマネジメントの実践能力を身につける。		
授業計画	第1回 ケアマネジメントの現代社会における意義と機能について 第2回 ケアマネジメントにおける人間の尊厳と自立等について 第3回 ケアマネジメントにおける自立支援について 第4回 ケアマネジメントにおける価値と倫理について 第5回 ケアマネジメントの展開過程の全体構造について 第6回 ケアマネジメントの計画について (1) 第7回 ケアマネジメントの計画について (2) 第8回 ICF（国際生活機能分類）とケアマネジメントについて (1) 第9回 ICF（国際生活機能分類）とケアマネジメントについて (2) 第10回 事例演習 (1) 第11回 事例演習 (2) 第12回 事例演習 (3) 第13回 ケアマネジメントの専門性について 第14回 ケアマネジャーの資質及び向上について 第15回 まとめ		
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、探求していく態度が求められます。		
評価方法	授業時課題：50%、レポート：50%として総合評価する。		
テキスト・参考書	【テキスト】 「生活支援学の構想」黒澤貞夫、川島書店 「ICFを取り入れた介護過程の展開」黒澤貞夫編著、建帛社 【参考書】 「介護福祉の専門性を問い直す」黒澤貞夫著、中央法規出版		

講義科目名称： ソーシャルワーク研究・演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	2	選択
担当教員			
土屋 昭雄			
添付ファイル			

学修目標	1ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2ソーシャルワーク研究方法についてさらに広く深く学ぶ。 3ソーシャルワーク研究に関する論文の読解と研究。		
講義の内容（基本的枠組）	ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容を深く理解するために、ソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み研究する。		
授業計画	第1回 授業オリエンテーション・ソーシャルワークとは 第2回 現代を生きる人々の問題とソーシャルワーカー（ソーシャルワーカーの存在意義について考える） 第3回 ソーシャルワーカーとソーシャルワーク（専門職としてのソーシャルワーカー） 第4回 社会福祉士の倫理綱領・社会福祉士の行動規範 第5回 事例研究（虐待・アルコール依存症・引きこもり） 第6回 ソーシャルワーカーの活躍の場と具体的なソーシャルワーカーのイメージ・ソーシャルワーカーの活動拠点と役割 第7回 事例研究（虐待事例：インテーク） 第8回 事例研究（虐待事例：インテーク） 第9回 事例研究（虐待事例：アセスメント） 第10回 事例研究（虐待事例：アセスメント） 第11回 事例研究（虐待事例：アセスメント エコロジカル視点・医学モデルとストレングス視点） 第12回 事例研究（虐待事例：プランニング） 第13回 事例研究（虐待事例：プランニング） 第14回 事例研究（虐待事例：インターベンション・モニタリング） 第15回 事例研究（虐待事例：ターミネーション） 第16回 事例研究（虐待事例：ターミネーション） 第17回 グループへのソーシャルワーク 事例研究（アルコール依存症事例：準備期） 第18回 事例研究（アルコール依存症事例：準備期） 第19回 事例研究（アルコール依存症事例：開始期） 第20回 事例研究（アルコール依存症事例：開始期） 第21回 事例研究（アルコール依存症事例：作業期） 第22回 事例研究（アルコール依存症事例：作業期）		

	第23回 事例研究(アルコール依存症事例：終結期) 第24回 事例研究(アルコール依存症事例：終結期) 第25回 事例研究(ケアマネジメント：ケース発見・インテーク) 第26回 事例研究(ケアマネジメント：ケース発見・インテーク) 第27回 事例研究(ケアマネジメント：アセスメント) 第28回 事例研究(ケアマネジメント：アセスメント) 第29回 事例研究(ケアマネジメント：目標設定・ケアプランの作成・実施) 第30回 事例研究(ケアマネジメント：モニタリング・再アセスメント・終結)・まとめ
受講生への要望	この授業は、ゼミ形式で進めるので、十分事前準備をして授業に出席すること。
評価方法	授業内での発言50%、レポート50%で総合的に評価する。
テキスト・参考書	基本教材として、必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。 各自が報告する資料等は各自で用意する。

講義科目名称： 健康福祉学研究方法特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
大山 真貴子			
添付ファイル			

学修目標	1. 健康福祉学・看護学教育に関連する研究の動向を理解する 2. 健康福祉学・看護学教育に関連する研究成果を産出するための研究方法を理解する 3. 健康福祉学・看護学教育に関連する学術用語、研究デザイン、データ収集、分析方法、研究倫理に関する基礎知識を学修する 4. 演習を通して、研究批評の視点について理解する		
講義の内容（基本的枠組）	健康福祉学研究方法特論の学修を通し、学生は、健康福祉学・看護学教育方法に関連する研究成果を産出するための基礎知識として研究方法を学修する。具体的には、質的研究方法論、量的研究方法論の特徴及び学術用語、研究デザイン、データ収集、分析方法、研究倫理などについて学修する。学修内容の定着を促進するために演習を通して、学修内容の発表や討論、研究批評の視点について理解する。		
授業計画	第1回	ガイダンス、 研究分野に関する研究の動向1)	
	第2回	研究分野に関する研究の動向2)	
	第3回	研究成果を産出するための研究方法 1) ・質的研究	
	第4回	研究成果を産出するための研究方法 2) ・量的研究	
	第5回	研究における倫理	
	第6回	量的研究デザイン	
	第7回	質的研究デザイン	
	第8回	標本抽出、 測定概念	
	第9回	データ収集と解析、統計解析 1) 変数を記述	
	第10回	データ収集と解析、統計解析 2) 関係性の検討、予測、差を決定	
	第11回	研究結果の解釈	
	第12回	研究計画書の作成 1)	
	第13回	研究計画書の作成 2)、研究論文批評（クリティーク） 1)	
	第14回	研究論文批評（クリティーク） 2)	
	第15回	研究成果を産出するための課題、まとめ	
受講生への要望	自身の研究課題及び研究方法について検討しておく。 事前課題を行って授業に臨み、積極的にディスカッションに参加する。		
評価方法	プレゼンテーション、ディスカッション：40%、最終レポート：60%		
テキスト・参考書	・『バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 一評価・統合・エビデンスの生成 第7版、エルゼビア・ジャパン		

講義科目名称： 健康福祉学教育研究方法特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
小野 智佐子			
添付ファイル			

学修目標	看護教育課程（カリキュラム）の編成及び教育内容、教授の構成、評価に必要な基本的考え方と方法論を修得する。		
講義の内容（基本的枠組）	・看護教育における研究の動向、研究方法の開発等について探索する。 ・看護教育課程の編成及び教授案作成に関する基礎的知識を理解する。 ・評価過程の概要及び教育課程の評価方法の検討を行う。 ・選択した領域の講義または実習についての指導計画を立案し、模擬授業を実施する。		
授業計画	第1回	科目ガイダンス	・本科目の目的・目標、授業内容、評価等、シラバスについて理解する ・わが国の健康福祉学・看護教育研究の現状を理解する。
	第2回	看護学教育研究の動向	・わが国の健康福祉学・看護学教育の歴史的変遷と研究動向を理解する。
	第3回	看護学教育課程編成の基礎（1）カリキュラム編成の知識・考え方	・看護学教育における教育課程編成の基礎的知識を得る。 ・看護学教育に関する関係法規について理解する。
	第4回	カリキュラム・プログラムデザイン（1）教育課程	・教育課程（カリキュラム）の基礎的知識及び、カリキュラム立案の一連の過程を理解する。 ・カリキュラムマップ及びカリキュラムの要素について理解する。
	第5回	カリキュラム・プログラムデザイン（2）シラバスの設計	・シラバス（授業計画書）の目的及び基本設計について理解する。
	第6回	カリキュラム・プログラムデザイン（3）授業設計	・授業設計の意義及び授業案作成までの一連の過程を理解する。
	第7回	カリキュラム・プログラムデザイン（4）学習方略	・カリキュラムにおける学習方略について理解する。 （学習方略の種類：講義・演習・実習・グループワーク・ディベート・ロールプレイなど） ・教育資源の活用について理解する。
	第8回	カリキュラム・プログラムデザイン（5）授業の展開	・授業の展開方法について理解する。
	第9回	教育評価の概要	・教育成果の評価の考え方及び評価方法について理解する。
	第10回	看護学実習を指導するための基礎知識（1）実習指導の基本	・看護学教育における看護学実習（臨地実習）の意義、実習の目的・目標及び実習施設・臨地実習指導者との連携について理解する。
	第11回	看護学実習を指導するための基礎知識（2）実習指導案	・実習指導案の作成に関する基礎的知識を得る。 ・実習での指導方法について理解する。
	第12回	教授指導案の作成（1）	・選択した看護学領域の指導計画案及び教授指導案を作成する。
	第13回	教授指導案の作成（2）	・選択した看護学領域の指導計画案及び教授指導案を作成する。
	第14回	模擬授業の準備	・選択した看護学領域で作成した教授指導案に基づき、模擬授業の準備をする。
	第15回	模擬授業の実施 総括	・選択した看護学領域で作成した教授指導案に基づき、模擬授業を実施し評価する。 ・看護教育教授方法に関する自己課題を明確にする。

受講生への要望	・指導計画及び教授案作成にあたっては、希望する看護領域を選択して行う。 ・指導日については、適宜調整する可能性がある。
評価方法	授業課題（学習成果物）70%、プレゼンテーション（模擬授業含む）30%
テキスト・参考書	適宜提示する。

講義科目名称： 地域看護研究・演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年	2	選択
担当教員			
大野 佳子			
添付ファイル			

学修目標	1) 地域看護学に基づく高度な実践力の修得 (1) 地域看護実践上の課題を明らかにし、健康課題解決のための既存の情報を選択し、収集できる。 (2) 看護専門職者として、既存の情報から地域で生活する人々への多様な看護実践の方法を評価できる。 2) 地域看護の研究法の修得 (1) 地域看護学の国内外の研究動向と社会問題・社会ニーズを把握し、課題の解決・改善に向けた検討ができる。 (2) 地域看護学の研究テーマと研究方法を具体化させるプロセスを理解し、研究者としての倫理に基づく研究能力及び情報活用能力を養う。		
講義の内容（基本的枠組）	本科目では、地域看護学に基づく多様な看護実践力の向上をめざし、地域看護学の研究と実践力強化のために、地域看護の概念、理論、動向、現状について理解する。その上で、地域看護研究の動向、研究方法について学修する。 地域包括システムに関連する実践例を用いた演習を通して、地域で生活する人々への多様な看護ができる専門職者として、実践力強化、相談、指導、コーディネート、倫理的課題の調整（情報リテラシー含む）について学修する。		
授業計画	第1回 ガイダンス ・科目ガイダンスにおいて、科目の特徴及び学習方法、評価等について説明する。 第2回 研究分野に関する研究の動向(1) ・研究分野(公衆衛生看護学、行動科学を含む)に関する研究の動向について概説する。 ・地域看護の概念・取り巻く社会背景・地域包括ケアシステムについて考察する。 第3回 研究分野に関する研究の動向(2) ・研究倫理及び看護研究に関する倫理について概説する。 ・研究者及び看護専門職者としての倫理、人権擁護についてディスカッションする。 第4回 地域看護研究で求められる研究倫理 ・看護学研究における研究倫理審査について概説する。 第5回 科学研究費申請等について説明する。 研究論文のクリティーク(1) 演習 ・地域看護研究論文のクリティークを実際に行い、研究論文のクリティーク(批判的な読み方)及びクリティカルシンキング(批判的思考)、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 第6回 研究論文のクリティーク(2) 演習 ・地域看護研究論文のクリティークを実際に行い、研究論文のクリティーク(批判的な読み方)及びクリティカルシンキング(批判的思考)、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 第7回 研究論文のクリティーク(3) 演習 ・各自の研究テーマに関連する論文(原著論文)のクリティークを行う(発表準備)。 第8回 研究論文のクリティーク(4) 演習 ・各自の研究テーマに関連する論文(原著論文)のクリティークを発表し、研究論文のクリティーク(批判的な読み方)及びクリティカルシンキング(批判的思考)、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 第9回 地域看護研究の基礎(1) ・地域看護研究における調査方法、データの収集方法について解説する。 第10回 地域看護研究の基礎(2) 演習 ・地域看護研究の特徴及び研究方法についてディスカッションする。 第11回 地域看護研究の基礎(3) 演習 ・地域看護研究における事例について検討する。 第12回 地域看護研究の基礎(4) 演習 ・地域看護研究における事例についてディスカッションする。		

第13回	家族介入プログラム開発と評価 (1)
第14回	・行動変容介入プログラム開発研究のプロセスと研究計画について解説する。 家族介入プログラム開発と評価 (2)
第15回	・行動変容介入プログラムの作成プロセスと評価について解説する。 地域看護研究における情報リテラシー (1)
第16回	・地域看護に関連する社会問題及び課題について情報を収集し、ディスカッションする。 地域看護研究における情報リテラシー (2) 演習
第17回	・地域看護に関連する社会問題 (事例) を取り上げ、ディスカッションする。 地域看護研究における情報リテラシー (3) 演習
第18回	・地域看護に関連する社会問題 (事例) を取り上げ、ディスカッションする。 地域看護研究における情報リテラシー (4) 演習
第19回	・地域看護に関連する社会問題及び課題についてディスカッションする。 地域看護研究における情報リテラシー (5) 演習
第20回	・地域看護に関連する社会問題と課題についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 地域看護研究における情報リテラシー (6) 演習
第21回	・地域看護に関連する社会問題と課題についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 地域包括ケアシステムの歴史と現在の社会的ニーズ① 地域包括ケアシステムの歴史と多様化する社会的ニーズの現状から求められる地域包括ケアシステムについて概説する。理想と考えるシステムについてディスカッションして地域包括ケアの必要性と課題を具現化する。
第22回	地域包括ケアシステムの歴史と現在の社会的ニーズ② 地域包括ケアシステムの歴史と多様化する社会的ニーズの現状から求められる地域包括ケアシステムについて概説する。理想と考えるシステムについてディスカッションして地域包括ケアの必要性と課題を具現化する。
第23回	地域社会福祉の基本理念と地域包括ケアシステムの概念 地域包括ケアシステムの基本理念と地域福祉の考え方、地域生活を支える保健・医療・福祉サービスの役割を概説し、多職種協働の現状の課題についてディスカッションする。
第24回	地域包括ケアシステムにおける看護の役割意義 地域における保健・医療・福祉サービスと地域看護の活動、看護職の役割について概説する。在宅医療の視点から看護の役割機能についてディスカッションする。
第25回	地域包括ケアシステム① 医療と福祉・看護の歴史的背景と疾病特性について理解し、障がい者の地域移行支援の困難となる要因と課題についてディスカッションする。
第26回	地域包括ケアシステム② 保健・医療・福祉の連携と多様な疾患に対応できる医療体制、また、協働支援の在り方についてディスカッションする。
第27回	地域包括ケアシステムの構築プロセス① その人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法について概説する。多職種協働の在り方についてディスカッションする。
第28回	地域包括ケアシステムの構築プロセス②演習 その人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法及び多職種協働の在り方についてディスカッションする。
第29回	地域包括ケアシステムの実践 (事例) 健康障害をもつ者に対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する活動事例を通して、健康障害を抱えながら地域で暮らしている実際から支援の在り方を考える。
第30回	まとめ・演習 全体の総括およびディスカッション 本講で学んだ内容を振り返り、特に関心があり具体的に調べたテーマについて、その人らしく地域生活ができる支援を構成しディスカッションする。
受講生への要望	事前に準備を十分にした上で講義に参加すること。
評価方法	授業時のレポート:50% プレゼンテーション:50%
テキスト・参考書	授業内で適宜指導する。